



# まーぶる通信

2010年10月4日

発行者 福富 恵美子 / 編集者 高田 一範

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町 39 番地 TEL (075) 874-5639 FAX (075) 874-5640

E-mail : marble.2009@room.ocn.ne.jp ホームページ : http://www2.ocn.ne.jp/~marble09/

## まーぶる / ひかりかぜ保育園 / Mother.Earth.Kyoto 合同企画 !

まーぶる・ひかりかぜ保育園・  
Mother.Earth.Kyoto で合同のイベン  
トを開催します。

まーぶるでは、青野浩美さんのミニ  
コンサート！障がい児者の居宅支援の  
無料相談コーナーや本場水餃子の模擬  
店を出します！詳しくは P2 へ。

みなさんお誘い合わせのうえご来場  
ください。

.....  
日 時：2010年11月14日(日)  
10:00～17:00  
場 所：光華女子学園  
.....

上映会 11/14回  
ひかりかぜ保育園をつくる会

「人生のはじまりの時間」を見つめたキッズストーリー

日 時	2010年11月14日(日) 上映3回 / 10:00、13:30、15:30
会 場	光華女子学園「徳風館」6F小講堂
料 金	入場料1,000円(小・中学500円)
主 催	ひかりかぜ保育園をつくる会 「こどもの時間」チャリティーイベント実行委員会
共 催	NPO法人まーぶる / Mother, Earth, Kyoto

監督 野中真理子  
撮影 夏海光造  
音楽 米山靖  
語り イッセー尾形

映画 **こどもの時間**

お問い合わせ ひかりかぜ保育園 075-314-0390 <http://hikarikazekko.com>

詳しくは

<http://hikarikazekko.com>

をご覧ください



# 青野浩美

## ミニコンサート

(無料)

徳風館 6F 小講堂 11時30分会場

11時40分開演

(約40分)

前例は作っていくもの  
自分の体験が、誰かの役に立てたら  
自分の想いを伝えたい

**本場!**

**手作り!**

**水餃子!**

海老!  
貝柱!入り!



11時～15時まで3号館・泉水広場にて

本場水餃子の模擬店を出します!!

本場とは? ということ? って

その答えは当日、売り子さんに

聞いてみてください

きっと納得できると思います!!

イベント終了後、来年3月末まで、

**まーふるで注目販売!!**

詳しくはお問い合わせください。

## 無料相談コーナー

福祉に関する無料相談を行います。

日々の生活の中でお困りのことはあ

いませんか?

こういうサービスを受けたいのだけ

と、どうあれほしいのかわからない

ことあひませんか?

どうぞ、この機会にご相談ください。

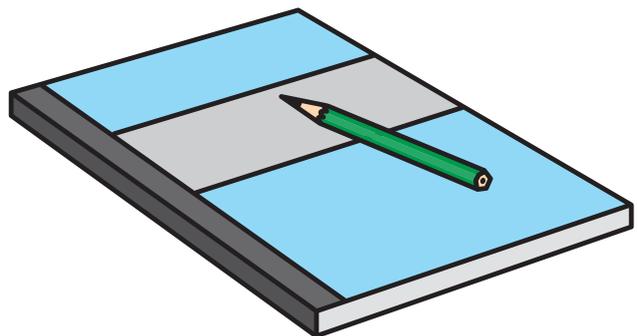
# 「人はつながりの中で」

～支援とは…その本質を現場から発信する～

平成22年9月25日（土）にありました京都市生活介護等事業（障害者デイサービス）連絡協議会 公開学習会に、まーぶるの職員・ヘルパーも参加させていただきました。今回は職員の石田、浦上のレポートを掲載させていただきます。

石田 祐貴

9月25日に公開学習会に参加させていただきました。僕が関わっている利用者さんとは違う様々な話を聞かせていただき、学び感じることができました。本人の行動にはどのような意味があるのか？正直なところ、自分のことでないことを理解するのは難しく、分からないことが沢山あります。しかし、その意味を考えることは大切であり、誰にでもできることです。講演を聞きながら改めてこのように感じることができました。利用者さんが何かを伝えている時に、その意味が分からなくとも自分なりに考えコミュニケーションをとることは、利用者さんと同じ視点で物事を考えたり、実行したりするというとても大切なことにも繋がります。コミュニケーションをとることが難しい方と関わる時に同じ視点を意識すれば、自ずと答えが見えることもあります。コミュニケーションが難しくても気持ちを知りたいので、この視点というものを大切にしていきたいです。今回の講演で一番印象に残ったことは、「みんながやっていることをやる。」ということです。障がいがあるからといって、みんながやっていることを避けている、避けられているという人が沢山いるかもしれません。しかし、映像を通して感じたことは、同じ人なのだから何でもやってみるべきだということです。簡単なことでないとしても、まずは考えることが大切だとも感じました。今回感じたことを今後活かしていこうと思います。



今回の研修会では主にデイサービスでの支援についての実践報告、講演がありました。しかしその内容は決してデイサービスだけの話ではなく、すべての「支援」に通じるものがありました。とても内容が濃く、私のまとめ力ではまーぶる通信で一年ほど連載をすることになりそうなので、次回があればぜひ参加していただき、実際に講演を聞いていただきたいなと思います。

さて、本題に移りますが研修会の冒頭で「今回のテーマである“人はつながりの中で”この後にあなたならどんな言葉をつなげますか？」という問いかけが主催者からありました。その時、私は何も思いつかなかったのですが、研修を終えた時「人はつながりの中で変化し、可能性を広げていく」そのように考えるようになっていました。そう考えると支援者としてダメだったと思うのですが、私は利用者さんが「いつもと同じ」ならとても安心できました。もちろん状態を維持できているという意味では変わらないことはとても良いことです。しかし「生活」という観点からみると話はかわります。なぜなら変わることは可能性を広げることにつながるからです。

こう考えたのも研修会で次の様な報告があったからです。ある事業所にパニックになる、大声で泣き叫ぶ、自傷行為があるという自閉症の方がいました。体も大きく大変なケースだったようですが、当時から8年ほど経ち、今現在この方はそのような行動も減り、厨房で料理の手伝いをしています。高野豆腐を雑巾のごとく絞っていましたが、その姿はいきいきしており明らかにパニックを起こしていた時代の生活よりは輝いているように見えました。もちろんそこに至るまでの支援者の努力、そしてなにより本人の努力は大変なものだったと思うのですが、変わることで料理という可能性を見出したのです。しかし、もしこの方に誰も支援していなければどうなっていたでしょうか。今も大声で泣き叫び、自傷行為を繰り返していたのではないのでしょうか。

このように人はつながりの中で変わっていきます。これは障がいがある、ないに関わりません。もちろんすべてがいい方向に変わるとは限りませんが、現状に満足し、向上心をなくして立ち止まるよりは良いと私個人は思います。

最後に今回の研修会で支援の本質と云うものを現場から発信、報告していただけた、本当にいい勉強になったと思います。なかなか報告していただいた事業所の様にはうまくいかないかもしれませんが、利用者さんがいい方向に変わり可能性を広げられるような支援を行うのが今後の課題だと思いました。